



キャンパス / 広島県広島市 学生数 / 5,327人 創立 / 1966年
 学部 / 文、教育、心理、現代ビジネス、家政、薬、看護
 大学院 / 文学、家政学、薬学、看護学
 経営 / 学校法人安田学園
 設置校 / 安田女子短期大学、安田女子高校、安田女子中学校、安田小学校、安田幼稚園、安田幼稚園安東園舎

ビジョン	「柔しく剛く」。人間としての徳と、意志、知識、技術などの自分を支える実力を備える人材を育てる
課題	主力として活躍するための教育により、地域における女子大の価値を維持する

重点施策 学園訓「柔しく剛く」を体現する学生の育成に力を入れる

施策	概要	成果
3つのポリシー策定の方針	「柔しく剛く」の具現化をベースに策定。ディプロマポリシーでは、身に付けるべき能力・態度として使命感、倫理観、自立性などを規定。カリキュラムポリシーでは、その達成に向けた「まほろば教養ゼミ」の開講などを規定。アドミッションポリシーでは、全学部共通で向上心、旺盛な学修意欲、主体性などを求めることを規定。	▶中退率は全学部1%未満、 全学平均で0.5% ▶2013年3月～2022年3月 卒業生の平均就職率98.7%
チューター制度	1学科を1～3クラスに分け、クラスごとにチューター(クラス担任)を配置している。クラスとチューターは4年間(薬学部は6年間)固定。チューターは学習支援センター、キャリアセンター、就職指導委員と連携。学修、生活、就職など、学生生活全般の相談役となり、全学生が自立的に考え、行動できるよう支援する。	▶インターンシップの受け入れ、 学内合同就職説明会に、 それぞれ地元企業を中心に約 200社が参加。インターンシ ップ受け入れ先を対象とした、 教育目標の達成度調査 (2021年度実施)で、「使命感・ 倫理観」「社会性・コミュニ ケーション能力」について高 評価を得る
まほろば教養ゼミ	薬学部を含め1～4年次に週1回、クラスごとに行われる必修科目。「安田を知る」「学びを知る」「自分を知る」「社会を知る」ことを軸に、チューターと学生が協働し、各クラスで独自に活動。チューターによる講話、クラス全体による話し合い、レクリエーションなどを通して、学園訓に基づく自己実現をめざす。	▶卒業生調査で、約7割が現 在の就職先に「大変満足」 「満足」と回答(2019年3月 卒業生)
インターンシップ	キャリア科目として、3年次前期に15回の授業を通じた事前研修、夏休みに原則5日間のインターンシップを実施。インターンシップ中は教職員と企業担当者が連携しながら、成果を高めるようフォロー。修了後、学生は報告書の作成(学科によっては企業担当者を招いた報告会)や個別相談を行い、その後の目標を設定する。	

注目! 総合大学としてのフィールドをさらに拡大し、8学部となる理工学部を2025年度設置予定*

2025年度の設置をめざす理工学部は3学科構成。生物科学科では食品化学、応用生物学などを、情報科学科ではWebプログラミング、XR、IoTなどを学び、建築学科では1級建築士の養成などを行う。既存の家政学部には食や建築を学ぶ学科、コースがあり、共通教育科目には数理・データサイエンス・AI教育プログラムが配置されているが、新学部は、より理工学寄りの専門性を磨く教育を行う。高度な研究、実験に対応するために、延床面積15,000㎡の新棟の建設も予定している。

学部設置に向けて構想は十分なマーケティング等を行うが、具体的に動き出してからリリースまでは素早く動く、フットワークの軽さがうかがえる。ただし、財務に関しては慎重だ。これまでも、薬学部設置時に9号館を増築、看護学部設置に向けて5号館を建て替え…とキャンパス整備を進めてきたが、収入増を見込んだ資金の「前借り」はしていない。余剰資金を持つマネジメントを行い、財源ができてから建築に着手する堅実さが、安定的な経営を支えている。

2003年度以降の“総合大学化”の変遷

年度	学部学科
2003	現代ビジネス学部現代ビジネス学科開設
2004	家政学部生活デザイン学科、管理栄養学科開設 文学部人間科学科を心理学科に名称変更
2007	薬学部薬学科開設
2011	文学部日本文学科書道文化専攻を書道学科に改組
2012	文学部児童教育学科を教育学部児童教育学科に改組 文学部心理学科を心理学部心理学科に改組
2014	看護学部看護学科開設
2015	現代ビジネス学部国際観光ビジネス学科開設
2016	家政学部造形デザイン学科開設
2018	心理学部心理学科を現代心理学科に名称変更 心理学部ビジネス心理学科開設
2020	現代ビジネス学部公共経営学科開設
2025	理工学部(生物科学科、情報科学科、建築学科)開設予定*

*構想中

地域社会での女性の活躍をめざしスピーディな改革で総合大学へ

CASE STUDY

安田女子大学

新たな学部学科を次々と設置して、女性の社会進出を先導してきた安田女子大学。女子大の存在意義が問われる中でも、地域からの「安田ブランド」への信頼は厚い。



企画部次長
企画部大学企画推進課 課長

脇田 好章

わきたよしあき ●民間企業を経て、2015年安田女子大学に入職。キャリアセンターで学生の就職支援に携わり、2018年より企画部大学企画推進課に配属となり現職に至る。

現代ビジネス学部の設置を機に総合大学化

本学の人材育成方針の核は、学園訓「柔しく剛く」。思いやりや気配りなどの品格と、社会を生き抜く力を兼ね備えた自立した女性であれ、との意です。目標への意欲を持ち、主体的に行動できる人材を育てる方針は、建学以来、不変ですが、「自立した女性」像は変化しています。現代では、単に就労するにとどまりません。中堅社員や管理職として企業活動の中核となることをめざす女性が増え、社会からも求められています。こうした有為な女性を育成し、社会に送り出すことを目的に、時代の変化に即応した改革を続けてきた結果、今では7学部を擁する総合大学になりました。転換点は、2003年度の現代ビジネス学部設置です。それまでは文学部のみ

の単科大学でしたが、男女共同参画の動きの高まりを背景に、ビジネスそのものを学問化しました。その後も女性が活躍するフィールドを増やすべく、学部学科を次々設置。2025年度には、女子大初となる理工学部の新設を予定しています。

インターンシップを通じた地域200社と連携

スピーディな改革の背景には、学長の強いリーダーシップと、学長と職員との距離の近さがあります。私が所属する企画部は、執行部の構想を支え、学部や部署に協力を要請する学長直轄の組織です。学長は最低週1日、多い時はほぼ毎日、企画部を訪れてランチミーティング等を開催し、意見を交換。ランチミーティングは法人との間でも週1回行われ、経営的な視点も共有しています。企画部は執行部からの問いかけにすぐ答えられるように、日頃から学内データを収集、整備。各学部や部署への課題の提示は、エビデンスをそろえたうえで、ロジカルな説明を心がけています。施策を行う理由に納得してもらえば、速やかに動いてくれるからです。中長期計画はあえて骨組みのみ

のシンプルなものにしている点も、改革に速度をもたらしています。社会変化の激しい時代、数年前の計画が有効性を保つとは限りません。急な環境変化や社会の新たなニーズに機動的に対応できるように、その都度、具体策を決められる余地を残しています。

社会のニーズを知るために重要なのが、地域との連携です。地元企業中心に就業体験するインターンシップをキャリア科目に設定。毎年、200社超に500人以上が参加しています。キャリアセンターの専門的職員が、日頃から地域の企業を回って関係性を構築。5日間にわたるインターンシップの内容は、教職員と企業担当者が話し合って検討します。

この10年間、就職率は常に97%以上を維持。卒業生の約7割が広島県及び周辺エリアで働いています。企業のニーズをくみ取った教育により地元で卒業生が活躍し、それが保護者、高校教員や企業に信頼を与え、受験生や採用者が増える好循環につながっています。労働市場で多様性確保の動きが進む中、人材の質に「お墨付き」のある女子大には高い需要があると考えられています。今後も、社会から信頼される人材育成力を誇れるよう改革を続けます。